

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

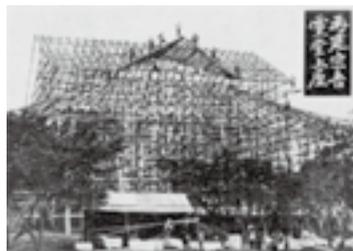
第2回 たなかしょうしん 田中照心

田中照心という人

田中照心は、嘉永5(1852)年9月3日、江戸今川橋(現在の東京都中央区)に父仁兵衛、母満喜子の長男として誕生。幼い頃から賢く穏やかな性格で、信仰心にあつく、朝夕念仏を唱え合掌して膝を折って礼拝をしていた。

父の仁兵衛は、下方村(現在の成田市下方)にあった東勝寺の照専和尚にわが子を仏弟子として引き受けてほしいと願い、照心は同寺に入寺した。読書を好み、学問好きであったことから、寺にある書物に親しみ、修行に励んだ照心は、真面目な修行ぶりが認められ、般若心経の教えを受けた。物覚えも早く、般若心経を3回読んだだけで覚えてしまい、人々を驚かせたという。

宗吾霊堂境内にある石碑によると、京都の智積院および和歌山の高野山で修行した後、東勝寺の住職となった。東勝寺は義



左上/宗吾霊堂門前の大火(明治43年9月)、左下/建設中の宗吾霊堂本堂(大正5年10月)(宗吾霊堂所蔵)
上/田中照心碑(場所:宗吾霊堂境内)

宗吾霊堂では、佐倉宗吾の命日(9月3日)にちなんで、9月2日(土)・3日(日)に秋の例大祭「御待夜祭」が行われます。境内には露店が並び、町内では屋台が曳き廻されます。

嘉永5年～大正12年(1852～1923)

江戸今川橋(現在の東京都中央区)に生まれる。宗吾霊堂(東勝寺)住職。幼い頃から信仰心にあつく、学問好きであった。東勝寺住職となつてからは、2度にわたり宗吾霊堂を建立し、現在のゆるぎない基盤をつくりあげた。



民・佐倉宗吾(木内惣五郎)の霊が祭られていることから、檀家を回り浄財を集め、宗吾供養堂の拡張改築に着手した。総樺造りの本堂、額堂、客殿事務所、五霊堂、宗吾霊客殿と次々に建立し、佐倉宗吾の名は広く知られるようになった。

宗吾霊客殿が完成した翌年の明治35(1902)年11月、宗吾250年忌供養が行われた。折しも、宗吾賛仰が高まっていた時期でもあり、供養に参列した参詣客の数は、三万人ほどに及んだという。

門前で火災が発生

明治43年9月、門前で火災が発生したため、宗吾霊堂の建物はことごとく焼失してしまった。しかし、悲嘆に沈んでいるわけにはいかないのが照心の立場であった。年齢はすでに60歳を過ぎていたにもかかわらず再建を決意した。照心は本堂再興に取り組み、その間、大正6(1917)年に東勝寺を現在の宗吾に移し、同10年落慶遷座の式典を挙げる。翌11年には現在の霊堂を完成させた。以来、信徒の数は増加の一途をたどり、宗吾霊堂としてのゆるぎない基盤をつくりあげた。

このように照心は、宗吾霊堂に一身を捧げ、晩年の事業として、楼門や鐘楼を造るために信徒に協力を求めようという矢先、体に不調をきたし、大正12年6月19日、遷化。72歳であった。
参考:復刻 照心大僧正伝(平成12年刊行 市立図書館所蔵)

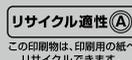
編集後記

夏から秋にかけて台風が多発する時期です。皆さんは風水害によって帰宅困難者になったことはありますか。私は都内の大学に通学していた時、台風により電車で一晩を明かしたことがあります。スマートフォンの電源が切れ家族や友人に連絡ができず、どうしようもできませんでした。その時の経験から今ではモバイルバッテリーを常に持ち歩いています。この機会にさまざまな状況を想定して準備をしましょう。

平成29年8月15日号 No.1345

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。